



人の声、弦楽器、 シンバルのシズルの音。

音が粗い、と感じたことありませんか？

そこに、スタックスがA級増幅を主張する大きなポイントがあります。現在、アンプはA級、AB級、B級というようにその動作上の違いから、いくつかの方式がありますが、トランジスターの直線性の最も良い部分のみを使って動作させるのがA級動作です。特にB級動作では入力波形の上下、つまりプラス側とマイナス側をそれぞれ別個(NPNとPNP)のトランジスターで増幅し合成する方式ですから、それぞれの立ち上り特性が原因でクロスオーバー歪が生じやすく、プラス側とマイナス側の競争目に生ずるノッティング歪を避けることが非常にむずかしいのですが、これに反してA級動作では、NPN、PNPトランジスターのそれ各自がプラス側もマイナス側も増幅したのち合成しますので、クロスオーバー歪やノッティング歪は根本的に生じないです。この違いは、聴感上、微妙ですが決定的な差となって現われます。人の声や、弦楽器の音の艶、澄み切っているはずのシンバルのシズルの音など、繊細な音色の変化や翳りの表現に大きな影響を及ぼすのです。

入力された信号を、そのままの波形で増幅し出力側へ送り出してやること——これが「アンプ」に課せられた使命なら、A級動作はアンプにとって原点であり、極点であるといえるのです。DAシリーズは、その具体的なカタチです。

STAX

日本ピックアップ工業会・会員 **スタックス工業株式会社** 〒171東京都豊島区雑司が谷1-25-5 ☎03(981)7227代

●本社試聴室は第1日曜日および火・木・土(第2土曜日を除く)に開いております。★製品名ご指定の上、S-8係へカタログをご請求ください。